

議 長

続いて、青木議員の一般質問を行います。6番青木議員。

6番

青木議員

それでは通告順に従いまして、一般質問をさせていただきます。

昨年、社会実験を行うという事が言われて、にわかにその廃止・反対運動が盛り上がったと。これはやはり行政なり或いはいろいろな団体が、そういった盛り上がりを見せるだけでは駄目であります。やはり町民挙げて、その三江線を守るといった意識が無いと、とても守れるものではありません。先ず三江線は江の川に沿って広島県三次市から江津市までを結ぶ全長108.1kmで、地方交通線ではJR西日本管内で3番目に長い路線です。1975年に全線開通し中山間地域の足として重宝されてきました。20年前に比べますと人口減少と車社会への移行が大きな原因と思われるが、利用者が減少する一方で、一日当たり昔の6分の1の236人で便数も24から17便に減少しました。また、昨年3月岩手県の岩泉線が土砂崩壊の影響でバス転換の方針が決まりました。ここで心配されるのが三江線は全線で57箇所の危険箇所を抱えています。速度も30キロに制限されています。今後、仮に大きな災害が発生した時に三江線廃止、或いはバス輸送に転換されないか危惧されるところでございます。三江線はJRの全国の路線で最も利用者が少ない路線となっています。JR西日本としては、全く採算の取れない路線としています。このような事からして余計に危惧されるところでございます。しかしながら地域住民としては、鉄道の存続は公共交通に頼る人を守ると共に鉄道の存続は地域を守るという事でもあります。自治体も含めて地域が心を1つに出来るかが大きく問われると思います。このような状況の中で昨年11月17日に「三江線を守る議員連盟」を江津市・浜田市・大田市・川本町・美郷町・邑南町の3市3町の議員47名で発足しました。現在では60名に達しています。現在、広島県三次市、或いは安芸高田市の議員さんとの連携を呼び掛けています。又、今年2月28日には、島根県議会自民党議員連盟はJR三江線の存続運動を支援する為に、「三江線活性化推進議員連盟」が結成されました。今後、両議員連盟で存続に向け活性化策など協議し、連携していかなくてはなりません。非常に心強い限りでございます。

また、2010年4月5日にJR西日本の佐々木社長が赤字ローカル線の一部を廃止し、バス転換する事を明らかにしました。廃止の対象路線は明らかにしていませんが、路線の有る地方自治体には受け入れるかどうか、この時に打診しているという事であったようであります。

JR三江線沿線6市町と島根県、JR西日本米子支社などで作っている三江線活性化協議会は、10月から3か月間代替バス便を新設し、三江線の利用の需要を調査する社会実験を行いましたが、バスによる社会実験が行われると、そのあとバス輸送に切り替えられるという危機感がございます。

現実には広島の可部線では、可部から三段峡までの間の路線が廃止されました。この社会実験の結果が将来のバス輸送に切り替わる判断材料になるので

6 番
青木議員

はないか危惧されます。これは、町民の交通手段を守る上から、どのような位置付けにあるのか。社会実験終了後の今後の対策について、お伺いを致します。

2つ目として、三江線活性化協議会が果たしてきた役割を、どう評価しておられるか、お伺いします。

3つ目として、施政方針の中に、JR三江線利用促進に向けた関連事業等の継続とあるが、新しい内容はあるのか、お伺い致します。

何れに致しましても、今後は「三江線を守る議員連盟」、或いは「三江線改良利用促進期成同盟会」と歩調を合わせた三江線利用促進に向けた取組が重要と考えられます。以上です。

議 長

青木議員の質問の「三江線存続運動の経過について」に対する、答弁をお願い致します。番外三宅町長。

番外
三宅町長

青木議員のご質問にお答え致します。

まず最初に、三江線増便社会実験の位置づけでございます。三江線活性化協議会が、昨年10月から3ヶ月に渡りまして増便社会実験につきましては、一部には「結果が、将来のバス輸送転換に切り替わる判断材料となるのではないか」と、そうした観測もあったところでございます。議員ご承知のとおり、旧三江北線の区間では、石見川本駅を除いて既に行き違い施設が撤去されているため、列車による増便が出来ない事から、列車をバスに見立てて、実験が行われたところでございます。これにつきましては、昨年12月に、沿線首長と共に、直接JR西日本米子支社に出向きまして、懇談して参ったところでございます。平成22年度の「三江線沿線地域公共交通総合連携計画」を策定中に、利用者の方々からいただいた「運行本数が少ない」、「利用したい時間に列車がない」、「最終列車が早い」などの多くの声がありまして、どのような潜在的な需要があるかを確かめるために実施した、との事でありました。当初は1日17便だった運行は、利用者からの要望に沿ったダイヤ編成が見直され、12月からは、1日23便へと増便されております。結果は、1便あたりでは平均3人から4人でございましたが、延べで6,558名もの利用がございました。三江線が沿線住民にとりまして、通院・通学・買い物などに欠かす事が出来ない公共交通機関であるという事が、改めて浮き彫りになったものではないかというふうに感じております。

次に、三江線活性化協議会が果たしてきた役割への評価、についてお答え致します。三江線活性化協議会は、沿線6市町・島根県・JR西日本米子支社・地元関係者・県立大学教授を構成メンバーとして、平成22年3月に設立されております。平成22年度には、目途を平成27年度として、沿線を取り巻く現状の詳細分析、或いは課題の抽出、更に将来必要な利用促進や誘客への取り組みを網羅した「三江線沿線地域公共交通総合連携計画」が策定されております。平成23年度には、三江線の知名度を向上させるため、P

番外
三宅町長

Rビデオが作成され、また、沿線住民向けの団体利用や駅舎を利用したイベント等を促す助成制度が創設されております。平成24年度には、増便社会実験に併せて、「神楽」をテーマにした「三江線神楽キャンペーン」が実施され、また、神楽・グルメ特別列車も運行されております。このように様々な事業が展開されておりますが、羅針盤たる総合連携計画の策定と増便社会実験が果たした役割には、特に大きいものがあると、評価しております。

次に、利用促進に向けた新たな取り組み内容について、お答え申し上げます。まず、商工会と連携した町の事業と致しましては、島根県観光戦略アドバイザーを招いて、三江線利用者の受入マナーを向上させる講演会を、3月19日に本町の本町会館ほんまちかいかんで行う事としております。また、三江線活性化協議会の主催によります、この春の大きな取り組みと致しましては、3月20日から5月6日までの延べ48日間に渡り、桜をテーマとした「三江線春キャンペーン」が予定されております。先般、広島方面を中心に1万5千部配布しましたパンフレットには「桜」を満喫できる沿線のウォーキングコースや、桜・観光施設・温泉やイベント情報が多数掲載されております。併せて、沿線の観光施設や飲食店で利用できる乗車割引特典等も掲載されております。この中で本町からの発信情報としては、石見川本駅から金比羅山こんびらやままでのコースを「桜ウォーキングコース」として、また、桜スポットとして、石見川本駅から木路原駅までの車窓から眺めることができる仙岩寺周辺の山桜などを紹介しております。更に、弥山荘や道の駅などの観光施設の紹介をはじめ、割引特典には弓市内の旅館、飲食店など6店舗にも賛同を頂き、キャンペーン期間中には、フォトコンテストやお花見神楽列車の運行も予定されております。この春キャンペーンの後には、10月から12月にかけて秋キャンペーンが予定されるなど、継続して事業が実施される事になっております。本町と致しましても、今春、金比羅山には、ぼんぼりを復活させると共に、期間中の仮設トイレの設置や、石見川本駅待合室へコインロッカーの設置など、観光客への「おもてなし」を図って行く事としております。

議 長

ただいまの答弁に対しまして、再質問ございますか。6番青木議員。

6番
青木議員

今後、いろいろ予定されているイベント等について説明をいただきまして、非常に盛り沢山なものが計画されているという事で、非常に良い事だなというふうに思っております。結局、社会実験についてJR米子支社の支社長は、増便による社会実験を行い潜在的な、先ほど言われましたけれども需要があるのか見極めたいと。将来の事はデータを見てからの討論になる、議論になる。それから終了後の対応については、本年度末にも協議会の中で総括する事になるだろうと。次年度以降はどうするのか等を議論の叩き台にしたい、という事だそうであります。また、一部区間が廃止されました可部線の場合ですね、JR側が存続に必要な目標の乗客数を地元を示し、その目標に達しなかった事が廃止の理由になったという事だったようでございます。JR側

6 番
青木議員 是用意周到に準備をしてくると、J R 可部線廃止反対に立たれた方が言っておられます。現在ですね、このような事実が有るのかどうなのか、1 点目は先ほど申しましたが本年度末にも社会実験に対する総括と言いますか、そういった事を議論したいという事と、そういった実数的な目標の提示があつてゐるのかどうなのか、お聞かせ下さい。

議 長 番外東間総務課長。

番外東間総務課長 J R 米子支社から社会実験に於いて、何名だったらとか言うような事は聞いてはおりません。何名以下だったら転換するとか、そういった事も聞いておりません。それと今の増便社会実験に於ける結果でございますが、現在、三江線活性化協議会の方で報告書の作成を進めているところでございます。

議 長 再質問ありますか。6 番青木議員。

6 番
青木議員 それからちょうど東間課長がお答えになりましたけれども、1 月 1 0 日に東間課長が出られたと思いますけれども、三江線の利用促進に向け自治体が同線と競合する形で走らせている無料バス等の在り方について初会合が開かれたようでありましてけれども、江津・川本・美郷・邑南の 1 市・3 町が同線とバスの共存に向け足並みを揃えて取り組まなければならないというような事で意見が一致したというふうな事が書かれておりましたけれども、これに対して非常に難しい面もあろうかと思いますが、それ以後、何か話がありましたか。

議 長 番外東間総務課長。

番外東間総務課長 現在、本町の場合、三江線のダイヤが何年か前かは記憶しておりませんが、江津から川本へ来る便が 8 時半前だったのが、今は 7 時 5 分が 1 0 分だったと思います。そういった関係で島根中央高校の生徒が大変だという事で江津へバスを出しております。それで昨年からは、美郷町方面へバスを出している訳ですが、そういった関係で三江線の利用者が大きく減っているのを要因だとは認識しております。それで江津・邑南・美郷・川本で集まりました協議をしたところでございますが、未だ結論については出ておりません。

議 長 再質問ありますか。6 番青木議員。

6 番
青木議員 今議会の町長施政方針の中にスクールバスやデマンド型乗合タクシー等による交通手段を一体的に捉えると共に J R 三江線や石見交通との接続も意識しながら地域公共交通計画を策定し、新たな地域交通の在り方を検討するというようにされています。是非ともこのような事を考えていただきたいとい

6 番
青木議員

うふうに思っております。昨年も新聞に出ておりましたが、町長も社会実験の結果、目に見える取組が必要、三江線の利用促進に向けた町の姿勢を示したいと言われてはいますが、やはりそのような事からやっぱりやっていたかというのが良いのではないかとこのふうに思っております。三江線を守る為には一過性の取組では本当は駄目だと思いますけれども、しかしながら現在のところそういった取組しか出来ないというのが現実ではないかというふうに思っております。昨年の8月12日に「^{かんさいこうふうかい}関西江風会」が通学に毎日通った皆さん方を中心に三江線に乗ろうという企画を計画されました。二両編成で口羽まで行った訳でありますけれども、町長さん、それから左田野課長、森川課長さんも乗っておられましたけれども、非常に遠くからも心配をされてそういったキャンペーンをされたという事でもありますので、やはりそういった事を中心に先ほども町長が取組を言われましたけれども、やっぱりそれも息長くやっぱりやっていく必要があるのではないかなというふうに思っております。それから先ほど金比羅^{こんびら}へ提灯をぶら下げて、春になって桜が綺麗に咲きますけれども、現在ですね、三次発9時57分で川本に12時08分に着く列車があります。川本発が13時53分ですので、1時間45分の待ち時間があると。そういうところで、ちょうど食事時間になりますので、よく見てみますと町内を見掛けない方が荷物を持ってぶらぶらしておられたり、町内の食堂へ入られて昼ご飯を食べられるというような事をしておられます。ちょうど僕自身も16年から、やまびこの会という会で約5年間土日だけ営業致しましたけれども、その時にもやはり関東・関西方面から三江線は非常にマニアさんが景色が良いから乗りに来たという事で、立ち寄られたりもしていろんな話もしました。これはJRの青春18きっぷというもののだそうでございます。これは現在、今でしたら3月1日から4月中旬ぐらいまでの期間に限って、或いは夏休みの期間とか、年に何回かそういう期間を区切って、こういった青春18きっぷというものを発行されておりますけれども、11,500円で快速、或いは普通列車に乗り放題という事だそうです。それを利用してきたという方が殆どであります。先ほど言われました金比羅山の桜がちょうどシーズンですね。そういったものを利用してきた方には非常に良い案内と言いますか、やっぱり駅前の方へそういった案内板と言いますか、そういったものを出していただければと。ちょうど駅前の方でこういった「思いでノート」というものを出しておられる店がありますけれども、その中でも何も無いという書き込みもございましたけど、これも米子へ議員団で請願に行った時に「こういうものがあって結局、三江線は非常に良いというふうな事がありますか」という事をちょっと発言しましたら、課長さんが、「それは川本へ行ってちゃんともう見ている」というふうな事で、先ほども申し上げましたけれどもやはり、すれ違い、行き違い装置を撤去したり、本線との接続を悪くしたり、こういった事も含め用意周到にいろんな面で準備をしてきておられるというふうに思います。結果的にちょうどずっと前に記憶がある訳でありますけれども、三江線と本線の行き違い表を悪くして、人が乗らな

6 番
青木議員

なくなったというところで、今度は便数を減らして、それから今度は行き違い設備を撤去したと。これは先ほども言いましたけれども用意周到に三江線を廃止する方向にJR側が向けたというふうに思っている訳でありまして、今後は三江線を守る為には、やっぱりいろんな高校の支援バスは当然に出さなくてはならないと思いますけれども、大変難しいものがございますけれども、いろいろ先ほど活性化協議会なりでいろんなイベントを組むという事がありますので、これを継続的にずっと組んでいただいて、やっぱり守るという事が大事ではないかなというふうに思っております。それで答弁というのは求めるものではありませんけれども、先ほど町長さんが県の観光アドバイザー3月19日。それから「桜」をテーマにしたキャンペーンが3月20日から5月6日に行われるという事が言われましたけれども、5月25日に三江線活性化フォーラム、これはちょっとフォーラムという名ではありますけれども、これは未だどういう題名でやるかは決まっておられませんけれども、これは島根県自民党県議団で結成されました「三江線活性化推進議員連盟」、また「三江線活性化協議会」、或いは「三江線改良利用促進期成同盟会」、それから「三江線を守る議員連盟」、その他、一般の皆さんにも多く参加を呼び掛けてそういった集会を開くという事を、この前、品川会長さんがそういった事をやるという事でお聞きしましたけれども、これが川本でやるという事なのでそれなりに人集めという事が必要ではないかなと。大変すみません町長、先に言った訳でございますけれども、すみません。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

申し遅れましたが5月25日には、三江線活性化協議会の主催によります、「三江線利用促進・活性化の集い」、これが「悠邑ふるさと会館」の方で開催されるという事であります。申し遅れました。

議 長

再質問ありますか。

6 番
青木議員

そのような事があるような事は、この前、大田の方でお聞きしまして、ちょうど偶々、洲浜県議さんも居られたので連携してやろうという事で話をされたようでございます。これは公にしても良いという事でもございましたので、敢えてこの場で公開をさせていただきました。何れにしても三江線を守るという事は、先ほど4者でそういったフォーラムをやるという事がありますけれども、やはり行政なりそういった人達ばかりがやっても、これは到底守れるものでもありませんので、やはり町民、或いは3町、特に江津・川本・美郷・邑南、この4町（1市、3町）がやっぱり中心になって盛り上げない限り、なかなか守れるものではありませんので、今日はこれまで質問させていただいたのは、やはりいろんな面で町民の皆さん方に「みんな頑張っているよ」という事を知っていただきたいという事で質問させていただきました。

6 番
青木議員 た。何れにしても先ほど町長さんがいろんなイベントを考えているという事をお聞きしまして、我々としても議員連盟としても一緒に今後、連携をとって三江線を守るという立場で頑張っていきたいなど、言った以上は肝に銘じておりますので、宜しくお願い致します。

議 長 番外三宅町長。

番外
三宅町長 いろいろご意見ありがとうございました。議員が仰いますように、この三江線というのはやはり生活交通の他、観光資源としては大変重要なものがあります。JRは何と言っても今は国鉄ではなくて、民間の企業であります。やはり採算という事を考えながらこれから交渉があろうかと思えます。そうした事で我々は危機感を持って地域を挙げて、この問題に取り組んでいきたいというふうに考えておりますので、一緒に戦って参りましょう。

議 長 6 番青木議員。

6 番
青木議員 三江線は我々としては子ども時代からずっと三島から見ましたら、ちょうど川を隔てて向こうを走ってますので、走っていて当たり前というふうな感覚でずっとおりましたので、やはり是非とも町長さんが言われましたように、昔その列車で通ったという関西の方に在住しておられる皆さん方も非常に三江線を守るという意味で、そういった昨年、乗車されましたので、そういった事からみんなで三江線を守るという事で、皆さんと共に頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いしたいと思えます。
以上、終わります。

議 長 これをもちまして、青木議員の一般質問を終わります。

々 午前中の会議は、ここで終了致します。

々 午後は1時00分より、再会を致します。
以上でございます。

(午前11時45分)